

なな山だより

なな山緑地の会会報 第4号 2006・7

なな山緑地を衛星から見る



なな山緑地の衛星写真 ゲーグルマップから

米国系の検索サイト、ゲーグルにマップがある。これで世界中どここの地図でも見られるが、このサイトの特徴は、地図の上にある(サテライト)のボタンをクリックするとNASAのランドサット衛星画像に変わることだ。この衛星からの画像の「なな山緑地」部分を拡大したのがこの写真である。何年か前のものらしく、右に大きな空き地が見えるが、今ではここにも住宅が立ち並んでいる。「なな山緑地」の周囲には住宅、団地、駐車場が迫り、緑地の緑を際立たせている。

去る5月20日、草の根市民助成金の公開選考会会場で、この写真のパネルを掲げたとき、審査委員たちから、思わず「おーっ」という声が洩れた。一目でこの緑地の状況が理解された一瞬であった。

一つ一つの屋根の下にそれぞれの家族の暮らしがある。人々の毎日の営みを支える住居が大切であることは言うまでもない。しかし、それと同じ位、この里山の緑の大切さが理解してもらえたのではないだろうか。

この写真は「なな山」の森は一度失ったら、二度と手には入らない、かけがえのない宝物であることを教えてくれる一枚である。

人と緑の共生を常に考えながら、これからもこの美しい里山「なな山緑地」をみんなの力で守り、育てていこう。



新緑のなな山全景

雑木林といえばドングリを想像する人は少なくないはずですが、そこで、まず初めに「なな山緑地」でドングリのなる木をあげてみます。コナラ、クヌギ、シラカシ、アラカシの4種があります。ほかには、スダジイなどシイの仲間、カシの仲間とアベマキ、ミズナラなど18種類ぐらい数えあげることができます。

これらの実堅果といわれる堅い実で、今日、一般にドングリと呼んでいます。私の子供の頃は、ドングリというのは、丸いクヌギの実だけを指し、他のものは例えばシイの実、カシの実などといったような気がします。コナラの実といった記憶がないので、コナラはドングリだったかもしれません。事実、ドングリとは「まるいくり」をい



ドングリ 左クヌギ右コナラ

い、クヌギの実のことだったようです。

「なな山緑地」ではコナラがおよそ6割を占め、クヌギは数えるほどしかなく、シラカシ、アラカシもごく僅かです。おそらく、薪炭材として、またキノコのホダ木として最も有用と思われたコナラを重点的に植えたものでしょう。

いつ頃からこの雑木林があるかは今生えている木から推定できます。一本立ちのもの、株立ちのものいずれも40年から50年と思われ、戦後間もない頃に伐採されたものや新たに植えられたものとわかります。コナラが今のように高木になる前の

段階でその他の木々の芽生えがあり、その元気のいいのが大きく成長して今の多様な雑木林を形成しているのでしょう。

コナラの仲間にミズナラがありますが、これは標高の高いところか少し寒冷の土地に自生しています。葉の形で区別できます。クヌギはドングリの形、葉の形、幹の模様によりコナラとの違いがはっきりしています。炭にしたときその断面が菊の花が開いたように割れ目ができることから菊炭といわれ、その形の良いものは珍重されました。

ミズナラは材質がオークに似ていて高級家具材として輸出されていますがコナラはどうでしょうか。コナラ材としての銘木扱いは聞きませんが、やはり良い材ではないかと思われる。実際のところは、この「なな山緑地」で板材に挽いてみて仕上げをしてみればその良さが確かめられるでしょう。また、クヌギ材も同様です。クヌギの樹液はカブトムシ、クワガタムシの好物で夜になると樹液の染み出たところにたくさん集まります。子供たちはそのことをよく知っていて、昼間目印をつけておいて夜、虫取りに出かけたものです。



コナラも同様に虫たちに好まれ、昼間でも樹液にはチョウやハチも寄って来たりします。雑木林の主要な木は、人の役に立つだけでなく、他の多くの生き物の成育にも大切な役割を担っているようです。



幹の比較 左 クヌギ 右 コナラ

ヤマユリ *Lilium auratum* Lindl. ユリ科



ヤマユリ なな山にて撮影

7月中旬になると、なな山ではヤマユリが咲き出した。昨年、下草を刈ったため、かなり株が増えたようだ。なかには1本の茎に三つもの花をつけたものもある。大輪の花は風に揺れ、自然のなかで雄大な姿を呈していた。ユリは古くから日本でも、ヨーロッパでも栽培されていた。新約聖書の「受胎告知」は、天使ガブリエルが聖母マリアにキリストを身ごもることを告げる一節であるが、この場面を題材にしたルネサンス期の絵画の多くには、白百合が描かれている。ユリは聖母マリアの純潔の象徴といわれ、キリスト教においては重要な花となっている。

日本のユリはギボウシとともにシーボルトによって、オランダに運ばれた。テッポウユリ、カノコユリ、ヤマユリ、ウバユリ、ノヒメユリ、スカシユリな



カサブランカ

ども一緒だった。日本を出発したのが秋であったことから、ちょうど球根の休眠期に当たり、ギボウシと同様にこれもまたうまく生き延びることができたと思われる。ヨーロッパでは、日本のユリの美しさに園芸フィーバーが起こり、球根は高価な金額で取引引きされたという。

その後、別種同士の人工交配による新種の作出技術が進み、オランダでは、日本のサクユリ、ヤマユリなどの交配によってカサブランカを作出した。香り高く、大輪の白い花であることから世界中でもてはやされ、現在は日本へ逆輸入されている。カサブランカは花粉が服などに付着しやすいため、薬を取り去って販売している花屋が多い。

なな山緑地これまでの活動記録(3)

2005年11月からの記録を掲載します。今回でこれまでの分が終了しました。

(記録 戸谷)

2005年11月13日	参加 6名	広場草刈、間伐と皮むき、スズメバチの巣見つける
11月27日	15名	自然観察、道路柵作り、落葉囲い作り替、間伐
12月11日	12名	くず掃き、倒木片付け、スズメバチの巣掘り出し
12月25日	10名	草刈、くず掃き、落葉集積
2006年1月8日	16名	山始めの神事、草刈、落葉集積、コナラ・ヒサカキ伐倒、会報第2号発行
2月12日	14名	ごみ片付け、草刈、くず掃き、落葉集積、コナラ・ヒサカキ伐倒、
3月12日	15名	シイタケ・ナメコ植菌、コナラ・サワラ伐倒、シュンラン群生場所発見
3月26日	10名	総会、畑地作り、ソダ丸作り、ログミルで板挽き
4月9日	9名	ゴミ・落枝、倒木片付け、枯木・ヒサカキ伐採、畑地耕作、会報第3号発行
4月22日	36名	グリーンボランティア講座、なな山緑地内見学、下草刈、刈払機実習、ログミル実演、里山の生態系やその管理についての講義
4月23日	9名	新規落葉囲い西側に3基完成、落葉掃き、下草刈、落枝拾い、植物養生
5月14日	10名	下草刈、落葉集め、側溝掃除、畑地開墾
5月28日	9名	植生観察、板作り、側溝掃除、さつまいも苗植付け
6月11日		雨で作業できず
6月25日	13名	倉庫の整理及び機材・道具の棚卸、広場草刈、植物養生



4月22日 ボランティア講座が行われる



4月23日 落葉掃き、西側斜面

広げよう会員の和



リレー随筆(4) 作業・作業活動のお話

戸谷恵麻

ダンディーな長尾さんから引き継ぎました、「なな山」最年少のマドンナ(!?)です。最年少とは言っても、もう三十代。でもまだ学生です。今日は自分の勉強している「作業療法士*」の道具である「作業・作業活動」についてご紹介させていただきます。

なな山への参加理由はそれぞれにお持ちのことと思います。私自身、なな山に魅力を感じて継続参加している一人ですが、作業療法の勉強をしていて、作業の持つ要素が魅力の一つだと感じてきました。

その魅力は教科書の引用になりますが、次のようなものがあります。

作業・作業活動と結果には： 社会的、個人的価値や意味が伴う(意味性)、 作業が持っている目的に導かれる(目的性)、 過程、結果が明らかで「できる」といった満足感や達成感が得られる(具体性)、 道具の使い方や動作に気持ちが変われる(投影性)

ひとが作業をすることで： 意志が働く(能動性)、 心身諸機能が賦活される(身体性)、 道具を使うことでの現実検討や有能感が得られる(操作性)、 我を忘れる(没我性)

ひとと一緒に作業をすることで： 体験をともにする(共有性)

羅列しただけではわかりにくいかもしれませんが、でも 没我性は体験されていっしょなことだと思います。例えば、もう活動終了?とか、あるいは頭痛があっても、作業中は忘れていたりとか。そのように見直すと作業の持つ魅力が再認識できませんか?

でも理屈はいりませんよね。これからも皆さんで怪我をしないよう、楽しく活動してまいりましょう よろしく願いしまーす(^)v。

次はソフトボールつながりで佐伯さんにパス! 私の守備はファースト、佐伯さんはどこかしら?

*作業療法士:理学療法士、言語聴覚士と並び、リハビリテーションを行う国家資格の一つです。勉強は3~4年。

トピックス TOPICS とびっくす TOPICS トピックス TOPICS とびっくす



草の根市民基金の助成を受ける

5月20日、公開選考会において、2回のプレゼンテーションの結果、多くの応募団体の中から、なな山緑地の会がトップに選定され、06年度の草の根助成を受けることになりました。



新しい落葉囲いが完成

4月23日、西側に新しい落葉囲いができました。以前は間伐材の組み合わせでしたが、今回は杭と合板で効率良く3連の落葉囲いができて、西側のくず掃きが楽になりました

なな山だより 第4号
発行
発行責任者
住所
編集委員

平成 18 年 7 月 23 日 発行
なな山緑地の会
高木直樹
多摩市和田 1394 13
鎌田文雄・中原君代・戸谷恵麻

編集後記

雨で活動中止の日もあって、梅雨明けが待ち遠しいと思っていましたが、明ければまた暑さ対策が大変です。会員の皆様、健康に十分、注意しながら、楽しく活動を続けましょう。K